

第十九回句会 俳句

【高点句】

- ☆花満ちて抜けゆく風の湿りかな 〈眞澄〉  
☆金の数珠吊りたるやうに木五倍子(きぶし) 咲く 〈明美〉  
☆花盛り振り返りまた振り返り 〈明美〉

【各自一句】

- ・ 刻限を気にしつ愛でる桜かな 〈眞澄〉  
・ 桜咲く想うは父母の笑顔かな 〈茂〉  
・ 花冷や石組粗き下り坂 〈静〉  
・ 春深むラフマニフにたゆたいて 〈千恵〉  
・ しばらくはしだれ桜や園の顔 〈童心〉  
・ 桜咲く駒場の丘の名残かな 〈青蛙〉  
・ 桜舞う自己紹介の窓の外 〈莫院〉  
・ 小流れに音満つ花の播磨坂 〈一馬〉  
・ シナやトサ時空を超えて咲くミズキ 〈撫子〉  
・ 花冷や学究の園飽かず行く 〈安津子〉  
・ 一木の枝垂桜の妖しかり 〈明美〉  
・ 花人や野点の席にかしこまり 〈きさ〉

\*以上、36句(3句ずつ12名) より、選句は13名により4句ずつ

\*高点句は、高得点の句より3句(同点の句がある場合は、第三位の句迄)

\*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による(得点順ではなく、俳句一覧表に偶然

記載された順に掲載)